

バイオ・ライフサイエンス



キーワード：精神障害者、地域生活、看護

精神障害者に対する地域生活支援に関する研究

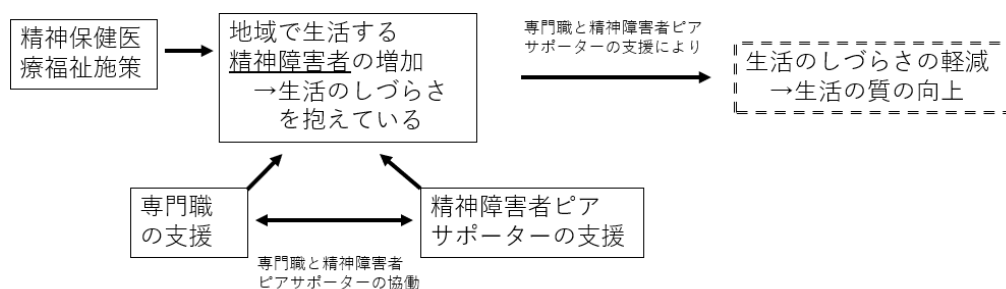
看護学部 看護学科 准教授

山本 智津子 YAMAMOTO Chizuko

研究の内容

我が国の精神保健医療福祉施策により、地域で生活する精神障害者は増加しています。しかし精神障害者は薬物療法や精神療法などにより症状が改善した後も、疾患の特性から日常生活を送るうえでの困難（生活のしづらさ）があり、地域生活を継続することは必ずしも容易ではありません。地域で自立した生活を継続していくためには、精神障害者の生活のしづらさの実態を把握する必要があるため、精神科デイケアや就労継続支援事業所等に通所している精神障害者の生活のしづらさについてインタビュー調査を行いました。その結果、精神疾患の特性による日常生活行動、対人関係、就労、偏見等による生活のしづらさが明らかになりました。これらの生活のしづらさに対し、行政機関や専門職の支援に加え、精神障害者自らの経験知を活かし発揮するピアサポーターによる支援の重要性が示唆されました。

現在、地域で生活している精神障害者に対して精神障害者と同じ視点を持つ精神障害者ピアサポーターが実践している支援について研究を進めています。



産学連携・社会連携へのアピールポイント

地域で生活する精神障害者に対して精神障害者ピアサポーターが実践している支援を踏まえ、今後、精神障害者ピアサポーターと支援機関や専門職との協働により、支援の見直しや新たな支援開発について検討していきたいと考えております。

研究者総覧（山本 智津子）

URL：https://gyoseki.setsunan.ac.jp/html/100001181_ja.html

